

ウィンドウ操作について

まず、用語を覚えておきましょう。

- ウィンドウ
プログラムを起動したりフォルダを開いたりしたときに現れる窓。
- デスクトップ
ウィンドウが現れていない状態で見えている青色の画面全体のこと。(青色の背景は設定で変更することができるので、青色でないこともあります。初期状態では青色です。)
- アイコン
プログラム、ファイル、フォルダなど各種の対象を象徴的に表わす小さな絵のこと。マウスによる操作の対象となります。マウスで選択されているときは、色が青黒く変わります。
- タスクバー
画面の下側面に出ている白く細長い部分。左端に[スタート]ボタンがあります。
- スタートボタン
プログラムを起動したり、各種設定を変更したり、Windowsの利用を終了したりするときに、最初に操作するボタン。スタートボタンを使わずに同様のことができる場合もあります。
- ツールバー
デスクトップの右側面に出ている、Officeを起動するためのボタンが並んだもの。ボタンの並んだ棒状のものを一般に「ツールバー」と呼びます。
- ウィンドウ
プログラムを起動したり、フォルダを開いたりしたときに現れる窓を「ウィンドウ」と呼びます。ウィンドウは、その操作のために次のようなものがあります。
 - タイトルバー
ウィンドウのタイトルが表示されるので、このように呼ばれます。
中央をクリックすると「最大化」操作が行われます。
左端をダブルクリックすると「閉じる」操作が行われます。
左端を右クリックすると、操作メニューが現れるので、必要な項目を選択します。
太字(ボールド)で示されているのは、左端をダブルクリックしたときの動作です。
 - 最大化ボタン [□]
ウィンドウのサイズを画面一杯に広げます。最大化された場合、ボタンの表示が変わり、もう一度押すと元のサイズに戻ります。
 - 最小化ボタン [▢]
ウィンドウをデスクトップから隠します。元に戻すには、タスクバーのボタンを操作します。
 - クローズボタン [×]
ウィンドウを消します。プログラムに対応するウィンドウの場合、プログラムの終了を意味します(最小化の場合、プログラムの動作は継続されます)。
 - スクロールバー
ウィンドウに一度に表示し切れない情報がある場合は、ウィンドウの右端や下端にスクロールバーが現れます。マウスでドラッグすることで、表示位置を移動させる

ことができます。

ウィンドウに対する基本操作としては以下のものがあります。

- 最小化 (既出)
- 最大化 (既出)
- 元の大きさに戻す (既出)
- 大きさの変更(リサイズ)
マウスカーソルをウィンドウの縁にもってくると、双方向矢印になる部分があります。ここでドラッグ操作をすると、ウィンドウのサイズを微妙に変更することができます。
- 移動
タイトルバーのところでドラッグ操作をします。

また、ウィンドウが現れると、個々のウィンドウに対応するボタンがタスクバーのところにも出現します。このボタンを操作することでも、ウィンドウの最小化/「元のサイズに戻す」を行ったりすることができます。

- 複数ウィンドウの切り替え
複数のウィンドウが画面に現れている場合、その中で操作の対象となるウィンドウ(例えば、キー入力した場合に、文字が打ち込まれる)は一つだけです。あるウィンドウが操作の対象となっているかどうかは、タイトルバーの色で判断します。明るい青色のものは操作の対象になっていることを示し、それ以外のウィンドウは暗い青色になっています。
操作の対象となるウィンドウを切り替えるには、新たに対象としたいウィンドウの上でクリックします。ただし、このとき、操作機能を持つボタンの上などでクリックしてしまうと、それに対応する動作も行われてしまうので、ボタン等のないところをクリックするのがコツです。また、タスクバーのところで切り替えることもできます。